

高齢者施設における感染対策の取り組み例

I 食事・食堂における留意点

- ◎ 人数を少なくし、一方向を向いています。
- ◎ 食事の際には、ソーシャルディスタンスを維持し、飛沫感染を防止するため、仕切り等を設置します。



- ◎ 食事等の前後には、手洗いの介助、または手指消毒をこまめに行います。



II 発熱者数グラフの作成について

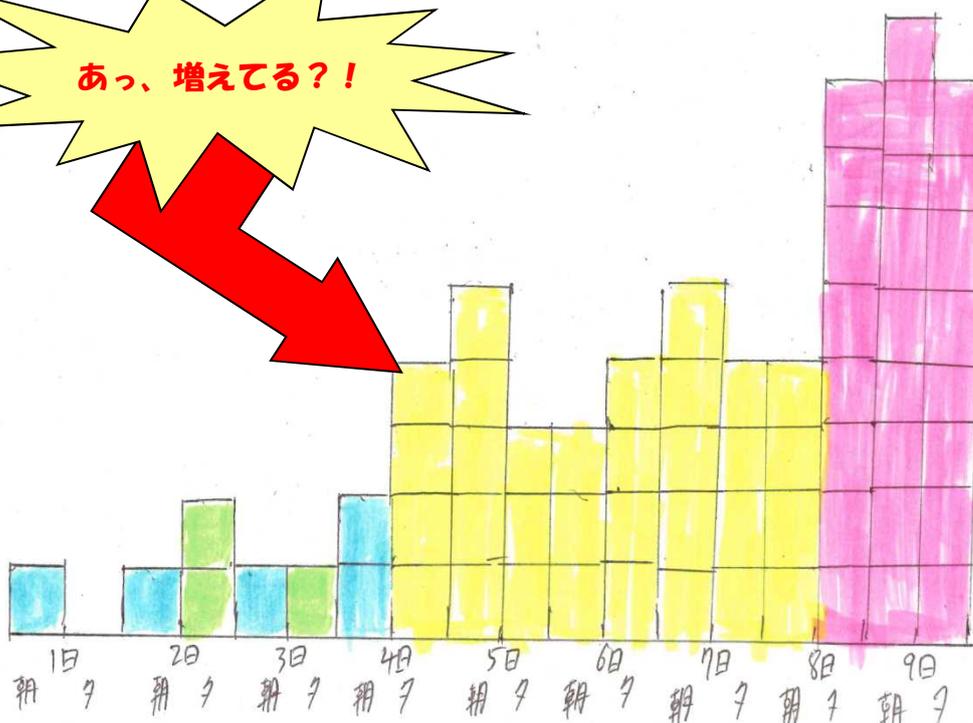
- ◎ 手書きでもPC等による作成でもかまわないので、発熱者の状況を見える化し、施設内における感染まん延の前触れとなる変化、予兆に気づきやすくするため、施設の利用者（入所者等+職員）における発熱者のグラフを作成しましょう。

赤の時点(8~9日目)では感染がまん延してしまっています。

一般的には潜伏期は5日程度とされているので、黄色時点の感染者が施設内での感染を広げている可能性があります。

黄色の傾向があらわれた時点で、施設内の流行の予兆に気づき、関連機関への相談や感染対策の強化を検討してください。

あっ、増えてる?!



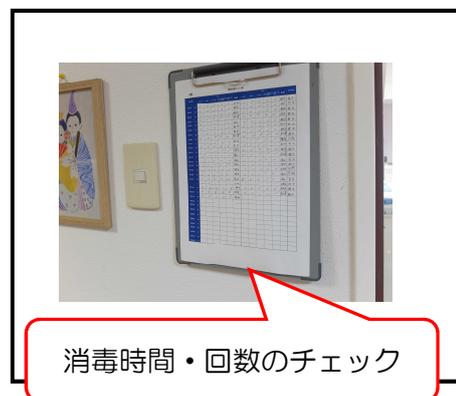
※ 施設内の予兆に気づくには、毎日毎日の地道なグラフ化が重要です。

Ⅲ 消毒等について

◎ 手の触れる機会の多い手すりなど、利用する前後には必ず消毒します。



◎ いつでも手指などの消毒が可能なように、消毒液を携帯しています。



◎ 共用のパソコンがある場合は、キーボードカバーや消毒による感染対策を行います。



IV リハビリテーション、レクリエーション等について

◎ リハやレク等においても、前後に手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、職員・利用者ともマスクの着用を行います。



V 新しい生活様式等に沿った介護について

◎ マスクの着用姿をほめ、着用を促しています。



※口腔ケア時には、フェイスシールド・ガウン等の装着



タブレットを用いたオンライン面会